

地区自治会におじゃまします！

このコーナーでは、宮代町内の地区・自治会の取り組みや地域の特色などをお届けいたします。

今月の気になったコト

このコーナーでは、宮代町内をいろいろ回っていた際に気になったモノ・コト・ヒトなどを取りあげていきます。

◆ 特別編：東条原自治会「鷲宮神社の獅子舞」

自治会情報 [東条原自治会]

【構成】

第1地区
46世帯

第2地区
103世帯




2024年5月号で取材した東条原自治会の方から、「東条原の獅子舞が宮代町の有形文化財に指定されることになった」とのお話を伺いました。今回は、地区・自治会活動としての取り組みではありませんが、地域が誇る文化を継承するために活動する方々について、特別編として取材しました。

【東条原の獅子舞とは】

東条原の獅子舞の歴史は古く、その起源は江戸時代に遡ります。徳川家康の命による新田開発が行われ、現在の東条原地区では利根川の氾濫などによる不作や疫病の流行などが続き、人々は苦しんでいました。「これは笠原沼の新田開発によって当地の神々の怒りを招いたためだ」と、人々は獅子舞を習い受け奉納したところ、水害も疫病もおさまり、米の石高がぐっと増えたことから、毎年奉納するようになったことが、東条原の獅子舞の始まりと言われています。用具保管箱に延享2年(1745年)の銘があることから、この時期から続いていることがわかります。その後、昭和40年代までは東条原青年会(16~36歳の長男のあつまり)が継承していましたが、昭和

55年に東条原獅子舞保存会が設立し活動が引き継がれ、翌56年に宮代町指定無形文化財に指定されました。

【宮代町有形文化財となった背景】

東条原の獅子舞は、獅子、天狗、ひょっとこ、笛、太鼓など、合わせて17人でおこないます。しかしながら平成17・18年頃から後継者不足となり、また演者や奏者が亡くなるなどして、獅子舞そのものの奉納ができなくなったことから、平成26年7月21日に東条原獅子舞保存会が解散してしまいました。そして、獅子舞に関する用具類は東条原鷲宮神社氏子総代により管理され、獅子頭等一部の用具については郷土資料館に寄託されています。また、復活のきざしが全くなかったことから、保存会に指定されていた無形文化財は令和4年に解除されました。そして令和6年、町域唯一の獅子舞である東条原の獅子舞の存在を後世に伝えると共に、江戸時代から使われてきたと伝わる用具類を滅失・散逸させることなく後世に遺し伝えるために、町指定有形民俗文化財として指定し保護していくことが決定しました。




【多くの人に知っていただくために】
有形民俗文化財に指定されたということは、獅子舞の奉納という文化活動そのものではなく、用具類の保存を通じて文化継承をするということを意味します。用具類を管理している氏子総代は今回の指定を機に、「東条原地区だけでなく、もっと多くの人に東条原の獅子舞を知っていただきたい」と話します。そこで令和6年は、例年行われていた獅子舞奉納の日に合わせ、7月15日に「祝・有形民俗文化財指定お披露目」と称し、獅子頭をはじめとした用具の展示を行うことを決定しました。当日は、かつて須賀中学校の生徒会活動で行っていた保存活動で使用した獅子頭のレプリカを被ることができたり、家内安全のご利益があるとして配られていた「万灯の花」の配布も計画しているとのこと。東条原の鎮守を大切にしたいという地元の方々の思いがこもった催しになりそうです。

◆ おしゃピク



【あじまんま】
住所：宮代町道佛1-9-15
TEL：080-6507-0946
時間：11:30～なくなり次第
定休：日月木(不定休あり)



「おしゃピク」という言葉をご存じですか？先日、カメラ女子サークル「カメル」と進修館がコラボ企画を行いました。(進修館NEWS参照) その際、カメルの皆さんに、「お昼ご飯はどうしますか？美味しくて見た目もかわいいお弁当を作ってくださいる町内事業者があるので紹介しましょうか？」と尋ねたところ、「お願いします！じゃあ、お昼は“おしゃピク”にします！」と仰られました。「おしゃピク？」初めて聞いた言葉ですが、とても気になったので、ちょっと調べてみました。

【SNSで話題の「おしゃピク」】

「おしゃピク」とは「おしゃれピクニック」の略だそうで、「フォトジェニックなお弁当やスイーツを持ち寄って楽しむピクニック」とのこと。要するに、かわいいお弁当を持ち寄って、みんなで外で食べるシーンを写真に撮ってSNSにアップするのが、今の流行りということですね。

【「おしゃピク」にピッタリ！あじまんま】

「おしゃピク」がなんなのか分かったので、迷うことなく「あじまんま」さんのお弁当を紹介しました。カメルの皆さんも、とても喜んでくださいました♪



おしゃピクとは関係ないのですが、せっかくなのでご紹介。カメルの皆さんのおやつには「白木蓮」さんの飲茶を紹介しました。

【中国料理 白木蓮】
住所：宮代町和戸2-5-2
TEL：0480-47-0372
時間：11:00～14:00
17:30～21:00
定休：月＋不定休



なきじんそん 今帰仁村だより

このコーナーでは進修館と交流のある沖縄県今帰仁村との交流の様子やさまざまな情報をお届けします。

沖縄県 今帰仁村
NAKIJIN VILLAGE



今帰仁村HPより引用

今帰仁村には世界遺産「今帰仁城跡(なきじんじょうせき)」があります。この今帰仁城跡が北山グスクと呼ばれていた時代の、北山王朝最後の王「攀安知(はんあんち)」と副将「本部太原」との確執や、王の忘れ

形見である「千代松」の仇討ちの物語を、芝居やダンス、空手や琉球舞踊を織り交ぜて演じられる現代版組踊「北山の風～今帰仁城風雲録～」という舞台があります。演じているのは、今帰仁村・本部町・名護市の小学3年生から高校3年生までの子ども達です。原作となる「北山」は、終戦後まもない1945年～46年、主席訓導(今でいう教頭にあたる役職)だった新城紀秀先生が、子どもたちや大人に希望や笑顔をとという気持ちで台本を書いたもので、当時の教え子達が演じ、1946年3月に今帰仁小学校で

で舞台発表を行いました。その後、当時の紀秀先生の教え子達が、当時生きる原動力になった「北山」を復活させ、紀秀先生に恩返しをしたいという強い気持ちで立ち上がり、2010年、演出家・脚本家である平田大一氏により、史劇「北山」は、現代版組踊「北山の風～今帰仁城風雲録～」として、見事に復活公演をとげました。

来る11月4日、この「北山の風」公演を進修館大ホールにて開催する運びとなりました。沖縄の子どもたちによるステージをぜひお楽しみに!!



復活公演から14年の時を経て、子どもたちは今日も稽古に励み、地域を盛り上げるべく様々なイベントに出演し、毎年自主公演も行っています。



進修館と交流している今帰仁村中央公民館で開催される夜市にも出演していました。また2023年11月には世界遺産今帰仁城跡での公演も行いました。



芝居と創作ダンスで今帰仁城にまつわる物語を演じるステージはとてもダイナミックで迫力があります。進修館大ホールでの公演も楽しみですね!

みやしろ町のいろいろ

宮代町の気になるところを訪問したり調べたり。雑学を交えつつ宮代町のいろいろを見ました。

◆ 宮代町立図書館／宮代町デジタル郷土資料

進修館だよりでは、記事を書く際に様々な情報を調査します。詳しい方に尋ねたり現地に取材に行ったり、インターネットで調べたり。中でも、特に情報源として活用しているのが、宮代町立図書館の「宮代町デジタル郷土資料」です。「宮代町史」や町指定文化財をはじめとする膨大な歴史資

料をいつでも自由に閲覧できるので、大変重宝しています。東条原の獅子舞について

も詳しい情報が載っていますので、気になる方はアクセスしてみてください。

宮代町立図書館／宮代町デジタル郷土資料
<https://adeac.jp/miyashiro-lib/>

東条原(ひがしくめはら)の獅子舞
(宮代町立図書館／宮代町デジタル郷土資料より)

